
怨嗟の眼付き

たかぴょん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怨嗟の眼付き

【Nコード】

N0594D

【作者名】

たかぴょん

【あらすじ】

とにかく読んでみてください。面白かったら評価をお願いします。

暗闇ではないが、洞窟の奥深くにたった一人取り残されたような感覚に捕らわれた。

赤いプラスチック製の置き時計は真夜中二時半を差しており、幼い脳は日頃から愛着を持っていたSL機関車を左の視覚に映し出す。もちろんただの妄想だ。

わたしは低脳だった。家族以外とは言葉すら交わせず学習能力が劣る、そんなわたしをたんす頭上の四十五×九十センチメートル程度の模型ガラス箱に入った『和服童女』は鋭く見つめていた。

この童女はわたしよりも二、三歳若い。もう一度朝まで眠りに就こうとするのは、守銭奴よろしく猛々しいと思った。その二日前、渋谷駅で母の手に釣られて地下鉄を降りようとしたとき、顔面にまんべんなく血色の火傷痕を残すサラリーマンと出会ったことがある。きっと哀しい事件が起こり、不幸を被ったのだらう。間違っても望みでの行為ではない。不運の器量に捕らわれず背広を着込み、清潔そうな髪型をさせ「何かございますか」と？疑惑の眼を持つ生き物？へいかくしている。自らの不運を安定剤のように飲み込んでいる威風堂々さ。彼はまさしく、あの童女と同じように凜とした目をしていた。

眼は口よりもものを言うところがあるが、まさしくその通りだ。どんなに美しく若々しい器量を持っている人間でも、五、六年もすれば、眉毛に火が付いたように慌て出す。生命保険のセールス文句ではないが、安定を志すなど糠に杭だ。

幼いわたしはその童女の眼の周りに赤い色鉛筆で落書きをしてみた。幸い、家族の誰もが高い眠りに就いている。とにかく眼の周りに傷のように、塗り潰す。

彼女はそれでも、鋭い眼付きを変えない。ひるまない。女ながらあっぱれだ。

今考えると「正直者」の眼付き。真つ直ぐこちらをにらみつける。劣等感を盾に取り、あらゆる逆光を弾き返す。運慶の仁王像のような勇ましい眼付き。良い年をしたわたしでさえも、神は本当に存在する　と錯覚を起こす。すごい眼だ。

当時のわたしは、そんな眼に嫉妬を覚えたのだろう。果たして大人になったわたしは？そんな眼付き？をしているのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0594d/>

怨嗟の眼付き

2010年12月10日19時46分発行